

公立大学法人金沢美術工芸大学
令和元年度 業務実績評価書(案)

令和2年 月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価方法.....	1
1	評価の構成.....	1
2	項目別評価.....	1
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4~7
	第1-① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	第1-② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	第1-③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	第3 財務内容の改善に関する目標	
	第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	第5 その他業務運営に関する重要目標	

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、その進捗状況を次の4段階の評価区分により、判断理由を付して評価する。

※ 年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない
Ⅰ	年度計画を実施していない

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(4) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、その進捗状況を次の5段階の評価区分により評価するとともに、特筆すべき事項や改善が望まれる事項についてコメントを付す。

年度計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある ※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある ※ 評価委員会が特に認める場合

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

II 評価結果

□ 全体評価

年度計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）となっており、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

第2期中期目標期間の4年目となった令和元年度も、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

特筆すべきは、カリキュラムポリシーに掲げる事項を踏まえた教育課程の更なる充実と強化のため、新キャンパスにおいて、全ての学生が領域を超えて利用可能な「共通工房」を設けることとし、学生が作品の制作に使用する教室面積の合計の約1/3をこの「共通工房」とすることを、大学の主張として設計に反映させたことである。これにより、学部・大学院を通じた専門領域の横断化を進めるとともに、当初の計画を超えて、多くのスペースと設備を共有化することで、実技中心の大学にありがちな領域毎の施設管理の弊害を取り払い、設備の重複を防ぎ、共通教育にも有効に活用できる設計となった。

このほか、以下に大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 大学院改革を視野に入れて大学院専任制度を見直し、元年度より教育の更なる高度化のため、各専門領域の客員教授の拡充を図ったこと。具体的には、学長のガバナンスの下で新たに客員教授の招聘予算を各科・各専攻に配分し、大幅な増員を行うことにより、大学院を中心とする専門教育の高度化に努めたこと。
- ・ 韓国・清洲市で開催された清洲国際工芸ビエンナーレに参加し、「平成の百工比照」事業の紹介を目的とする展示を行ったこと。具体的には、加賀象嵌・加賀蒔絵・加賀友禅の工程見本、九谷焼の色絵見本及び金沢クラフトの製品などを展示するとともに、工芸技術記録映像や韓国語と英語の解説パネルを用いて、ユネスコ創造都市・金沢の工芸と大学の研究成果を初めて海外で公開するなど、従来の活動をさらに充実させ、国際的な重要度の高い貴重な機会を得たこと。
- ・ 東アジア地域の優れた美術系大学とのネットワークを構築し、当大学を拠点とした大学間交流を推進するため、元年度からの5年計画を立て、海外協定校の拡充に着手したこと。特に、元年度は台湾で最も歴史のある国立台湾芸術大学との交流協定を予定より前倒しで締結し、今後の学生の交流、教職員及び研究者の交流並びに共同研究等に関する協議を進めたこと。

□ 項目別評価

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の 43 の小項目のうち、IV評価（年度計画を上回って実施している）が 6 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 37 項目と、全ての項目がIV又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 教養科目として「金沢の文化行政」及び「キャリアデザイン」を新設し、文化行政の実務を担当している職員や実務経験のある教員から講義を受けることで、汎用的能力を培う教育を実践したこと。
- ・ 学生が金沢 21 世紀美術館のコレクション展及び特別展を無料で何度でも鑑賞できる「金沢 21 世紀美術館キャンパスメンバーズ」に加入し、現代アートに関して自主的に学ぶ機会を充実させたこと。
- ・ 使用頻度の高い教室におけるプロジェクターの更新やマイクの新設を行い、学生及び教員の利便性を高めるとともに、学生からの要望の多い施設内での無線 LAN を増設し、インターネット環境を整備したことにより、学習環境の充実を図ったこと。
- ・ これまで大学独自の「授業料等減免制度」により修学支援を行ってきた大学院生が、令和 2 年度より開始した国の修学支援新制度では対象外とされたが、新たに国に準じた制度を大学独自に整備し、支援の対象範囲を拡充して修学支援を継続したこと。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の14の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が13項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 金沢市で開催されたユネスコ創造都市ネットワーク分野別会議 2019 において、「平成の百工比照」資料のうち約 5,000 点を金沢市文化ホールに展示し、国際的な重要度の高い場で大学の研究成果を公開するとともに、参加した研究者との交流を深めたこと。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の15の小項目のうち、Ⅳ評価が4項目、Ⅲ評価が11項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 芸術系大学コンソーシアム及び文化庁の共催による「芸術系教科等担当教員等研修会」を開催し、全国の図工担当教員に対し学校現場で応用できる演習内容を提供したこと。
- ・ 高大連携推進事業について、前回の金沢市立工業高等学校に加え、石川県立金沢辰巳丘高等学校、石川県立工業高等学校の全3校に連携先を拡大したこと。また、デザイン科に加えて日本画、油画、工芸科の授業も行ったこと。
- ・ 日本滞在中の外国人留学生を対象に、他の地域、他の大学では実現できない内容の公開講座として、大学教員の指導の下で工芸を体験し、日本の文化に触れる「KANABI 工芸セミナー」を新たに開講したこと。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の 13 の小項目全てがⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ デザイン科将来構想ワーキンググループを立ち上げ、学習に対する学生の需要や研究に対する社会の要請を踏まえたデザイン科の組織再編を協議したほか、ユネスコ創造都市・金沢にある美術系大学としての特色強化に向けた工芸科改革など、新キャンパスへの移転を見据えた検証を行ったこと。

5 財務内容の改善に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の 10 の小項目のうち、Ⅳ評価が 1 項目、Ⅲ評価が 9 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ これまでの社会連携事業を通して連携を深めてきた企業への働きかけを継続する一方、新規の問合せ企業に対しては実績をまとめた報告書を用いて PR 等を行い、外部資金の獲得に努めた結果、産学連携事業を 13 件、地域連携事業を 11 件受託し、33,057 千円の受託研究収入を計上するなど、当初見込の 16,000 千円を大幅に上回る収入を得たこと。また、受託内容については、新技術を踏まえた未来を志向した依頼が増える中、当大学ならではの機能性を重視した新しいデザインの提言を行ったこと。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の5の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が4項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ これまで取り組んできた社会連携のあゆみを公開するため、「未来へ繋ぐ248のプロセス」と題した展覧会を開催し、パネルや映像等で分かりやすく展示を行うことにより、市民に向けた積極的な情報発信に努めたこと。
- ・ 当大学客員教授で映画監督の米林宏昌氏が「400人のチカラ アニメーション映画が生まれる秘密」と題して金沢市文化ホールでトークライブを行い、美大への関心度を高めるとともに、新キャンパス移転に向けた機運の醸成を図ったこと。

7 その他業務運営に関する重要目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の14の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が13項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新キャンパスの基本コンセプトである「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」の実現に向け、大学の意向を基本設計に反映させるとともに、各専攻の希望を取り入れ、実施設計においては各諸室の機能面や導線の確保を重視し、より詳細な空間レイアウトの協議を進めたこと。